

都立野津田高等学校 令和3年度 年間授業計画
 教科：(芸術)、科目(音楽Ⅱ) 単位数：(2)単位
 対象学年組：第2学年 1・2・3・5組
 使用教科書：MOUSA2
 使用教材：The Basics of Music 第2版

	指導内容	科目(音楽Ⅱ)の具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定・時数
4月	リズムソルフェージュ	・八分音符までのリズムを手拍子で演奏する。	個人練習、全体練習のなかで習得度を観察する。	6
	器楽(キーボード)	・鍵盤の位置と音名を一致させる。 ・コード(C、G、F)の構成音を理解する。	コードネームの仕組みを学び、構成音を理解している	
5月	リズムソルフェージュ	・八分音符までのリズムを手拍子で演奏する。	実技テストを行う。	6
	器楽(キーボード)	・簡単なメロディーを弾けるようにする。 ・C、G、Fの3コードを使って簡単な伴奏付けをして両手で演奏する。	なじみのある曲に自分で伴奏をつけ、両手演奏ができる	
6月	創作	・カノンのコード進行にのせてメロディを創作し、キーボードで演奏する	個人の取り組みにアドバイスしながら進行状況を確認する	6
7月	創作	・自作の曲を完成させて演奏する。	作品提出、演奏技術を個別評価する。	6
	鑑賞	・創作の体験を基に作曲者の視点に立って鑑賞する。	学習内容について具体的に考えることができたか提出物で確認する	
8月				
9月	歌唱	・曲調や歌詞の内容を理解し歌唱表現ができるようにする。	楽曲を理解し積極的に声を出そうとしているか行動観察する。	4
	器楽(ギター)	・ギターの基本奏法、TAB譜やダイアグラムの読み方を復習する。 ・課題曲で用いるコード、メロディ8小節を全員で練習する。	ギターの正確な持ち方、奏法が出来ているか確認する。	4
10月	歌唱	・曲調や歌詞の内容を理解し歌唱表現ができるようにする。	楽曲を理解し積極的に声を出そうとしているか行動観察する。	4
	器楽(ギター)	・課題曲をメロディ、コードどちらも弾けるようにする。	昨年度の内容から発展させて少し長めの楽曲が弾けるようになる。実技テストで評価する。	4
11月	歌唱	・曲調や歌詞の内容を理解し歌唱表現ができるようにする。	楽曲を理解し積極的に声を出そうとしているか行動観察する。実技テストで評価する。	4
	器楽(三線)	・三線の基本奏法、工工四の読み方を復習する。 ・「涙そうそう」を弾けるようにする。	昨年度の内容から発展させて少し長めの楽曲が弾けるようになる。	4
12月	自由発表会にむけて	・演奏する楽曲、演奏スタイル、楽器編成について考え話し合う。	各グループ、個人の取り組みにアドバイスしながら進み具合を確認する。	4
1月	自由発表会にむけて	・グループでコミュニケーションを取りながら練習を行う。	各グループ、個人の取り組みにアドバイスしながら進み具合を確認する。	6
2月	自由発表会にむけて	・演奏方法を工夫しながら楽曲を完成させる。	各グループ、個人の取り組みにアドバイスしながら進み具合を確認する。	6
3月	自由発表会	・発表形式で演奏する。またアレンジやハーモニー、バランスなどについて自分の振り返りと共に他のグループについて評価する。	発表形式の実技テストにて各グループの音楽表現を確認する。	6

都立野津田高等学校 令和3年度 科目(美術Ⅱ) 年間指導計画
 教科:(芸術) 科目:(美術Ⅱ) 単位数:(2) 単位 対象:(第2学年1組・2～3組・5～6組)

対象: 2学年1組・2～3組・5～6組

使用教科書 : 光村 美術2

使用教材 : 各単元向けに制作したプリント・振り返りシート・感想文記入用紙

	指導内容	科目・(美術Ⅱ) の具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定・時数
4月	オリエンテーション・鑑賞	美術Ⅱを学ぶにあたり今までの美術を振り返り必要な注意事項を確認し、今後の授業で生かす。 ①楽しくまじめに制作する。 ②説明をしっかりと聞き、自分で考えて作業する。 ③鑑賞ではしっかりと見聞きし、自分の思いを伝える。	①美術Ⅱで求められる力の理解 ②教科書から自分の好きな作品を選び、理由まで記入する。	2
	デザイン:文化祭ポスターアイデアスケッチ	自分の文化祭へのイメージを捉え、言葉で表現する。それをアイデアスケッチの元にして考えをまとめる。 ①文化祭ポスターとしての要件を満たしているか。 ②アイデアとしての工夫が複数できているか。 ③色彩計画とレイアウトが備わっているか。	昨年の文化祭の様子を言語化し、多くの来場者を得るために必要な要素を考えているか。	4
5月	デザイン:文化祭ポスター下書き	自分のポスターアイデアスケッチの着彩のために、鉛筆で表現する。 ①丁寧に作業できているか。 ②レイアウトの文字を、トレースで美しく入れているか。 ③直線は定規を利用し正確に描いているか。	アイデアスケッチをより改善し下書きに入っているか。指導目標に沿って作業しているか。	2
	デザイン:文化祭ポスター着彩	スムーズな進行管理のために、着彩手順と使用画材に気を付けて着彩する。 ①大きな面積・明るい部分から塗り始める。 ②塗りムラの無い様に、水分量を適切に管理し絵具量が切れぬ様に計画的に作業する。 ③平筆を横に使い大きな面積を塗り、立てて細い部分を塗る。	①指導目標に沿って作業しているか。 ②自ら考えて先を見た作業を丁寧にしているか。	4
6月	デザイン:文化祭ポスター着彩	色彩計画に沿って、色味が効果的な配色になるように工夫させる。 ①強い色同士がぶつかりあわないようにレイアウトを行う。 ②対比や同化などの効果を考え、混色し色見本を利用しながら正確に配色する。	指導目標に沿った作業を進めているか。	2
	デザイン:文化祭ポスター着彩	ポスターの視覚的効果を狙って表現の工夫ができているか。 ①グレースケールやブラッシング・スタンプなどの工夫を入れているか。 ②精密な描写や、光の反射などの表現で密度を上げる。 ③全体のバランスを見て、塗り残しや塗りムラの表現がないか。	①文化祭ポスターとして充実した内容か。②目立たせたいものが技法を駆使して効果的に表現されているか。	4
7月	鑑賞:日本人デザイナーの活躍	DVDを鑑賞し、海外で活躍する日本人デザイナーの制作風景から、一流の世界を垣間見る。	①DVDを最後までしっかりと鑑賞できたか。 ②鑑賞した感想を十分に表現できたか。	6
8月				
9月	鑑賞:美術における様々なジャンルとその世界	具象、抽象、彫刻、塑像、広告デザイン、プロダクトデザイン、パフォーマンス、空間表現…美術には様々なジャンルがある。それぞれの特徴を理解し、その技法やコンセプトを自分の作品に生かせるように学習する。	①最後までしっかりと鑑賞し、それぞれの特徴を理解できたか。 ②鑑賞した感想を十分に表現できたか。	4
	絵画:静物画着彩	静物画の意義やポイントを理解し、個性を生かした表現を試みる。 ①モチーフをグループごとにセッティングし、どの位置もバランスの良い構図になるよう工夫させる。 ②画面を構成する要素を考え、画用紙内での構図を検討の後に鉛筆で線描きを行う。 ③モチーフの特徴と質感を捉え、水彩の淡彩技法に挑戦する。	指導目標に沿った作業を進めているか。	4
10月	絵画:静物画着彩	静物画の意義やポイントを理解し、個性を生かした表現を試みる。 ①モチーフをグループごとにセッティングし、どの位置もバランスの良い構図になるよう工夫させる。 ②画面を構成する要素を考え、画用紙内での構図を検討の後に鉛筆で線描きを行う。 ③モチーフの特徴と質感を捉え、水彩の淡彩技法に挑戦する。	指導目標に沿った作業を進めているか。	4
	彫刻:おいしそうな形	自分の好きな食べ物を選び、その食べ物の食品サンプル作りにチャレンジする。 ①アイデアスケッチで使用する材料を目的別に検討する。 ②色の研究を行い、適した色を検討する。	①真剣に自分の好きな食べ物を検討し、描いているか。②参考写真を元にしっかりと色を検討しているか。	4
11月	彫刻:おいしそうな形	自分の好きな食べ物を選び、その食べ物の食品サンプル作りにチャレンジする。 ③パーツごとに食品サンプルを粘土で成形する。 ④色の研究に沿って、適した色を着色する。 ⑤パーツよく配置し接着する。 ⑥仕上げのニス塗り、食品の鮮やかさと劣化を防ぐ。	③真剣に自分の好きな食べ物を丁寧に制作しているか。 ④参考写真を元にしっかりと色を着色しているか。⑤各パーツの仕上がりを十分に整わせ、擦れぬ様接着しているか。 ⑥ニスはムラにならない様に丁寧に塗ったか。	8
12月	鑑賞:抽象表現主義への理解	キュビズム、フォービズム時代の作家、作品に焦点をあて、その時代の背景や技法を学習する。	①最後までしっかりと鑑賞し、それぞれの特徴を理解できたか。 ②鑑賞した感想を十分に表現できたか。	4
1月	デザイン:工業製品に施す日本の伝統文様	サンドブラスターを使用し、コップやマグカップの工業製品に日本の伝統文様を取り入れたデザインを装飾する。 草木や花など、自然と融合した文様をデザインし、工業製品を装飾することで、無機物に命を吹き込む。また、自分で考えたデザインを日常的に使用する物に施すことで、使用物に愛着をもち、大切にすることを養う。 導入:①コップの大きさや形に適するデザインを考える。 ②日本の伝統文様と自然を融合させたデザインを模索する。	①デザインを施す物の大きさを把握し、適したデザインを考えることができたか。 ②テーマに合わせてデザインをすることができたか。	6
2月	デザイン:工業製品に施す日本の伝統文様	サンドブラスターを使用し、コップやマグカップの工業製品に日本の伝統文様を取り入れたデザインを装飾する。 草木や花など、自然と融合した文様をデザインし、工業製品を装飾することで、無機物に命を吹き込む。また、自分で考えたデザインを日常的に使用する物に施すことで、使用物に愛着をもち、大切にすることを養う。 ③アイディアスケッチ、下書きを元にマスキングシートへ写し、デザインカッターを使用してマスキングシートを切り抜く。 ④切り抜いたマスキングシートを各自が選択したコップに綺麗に貼り、サンドブラスターでガラスを削っていく。 ⑤完成したら一人ずつ他者へ作品を見せながらコンセプトを説明する。また、鑑賞者は発表を聞きながら鑑賞用紙へ記入する。	③、④用具の特性を理解して適切に使用し、丁寧に意図に応じた形を切り抜くことができたか。 ⑤自分の作品を言葉で説明できているか。 他の人の作品をしっかりと鑑賞し、自分の意見を踏まえて鑑賞用紙に書いているか。	6
3月	鑑賞:日本映画の理解	黒澤明「夢」からいくつかのエピソードを鑑賞し、黒澤監督のこだわりと現代映画との違いを知る。	①DVDを最後までしっかりと鑑賞できたか。 ②鑑賞した感想を十分に表現できたか。	6

都立野津田高等学校 令和3年度 年間授業計画
 教科：(芸術)、科目(書道Ⅱ) 単位数：(2) 単位
 対象学年組：第 2 学年 1 2 3 5 組
 使用教科書：東京書籍 書道Ⅱ
 使用教材：習字道具

	指導内容	科目(書道Ⅱ)の具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定・時数
4月	篆書の学習 漢字の変遷 甲骨文	漢字の誕生から現在に至るまでの漢字の歴史について理解する。 現存する漢字資料中で最も古いとされる甲骨の臨書学習を通じて、その特徴を観察し、刻られた文字と書かれた文字の関係性を理解する。	篆書の歴史的な位置づけを理解できたか。 甲骨文の書法を習得できたか。	6
5月	金文 石鼓文	鑄込まれた文字である金文の臨書学習を通じて、直線的な甲骨文とは違う曲線的な造型や書風の特徴を味わい、その書法を学ぶ。 大家と称される、石に刻まれた文字である石鼓文の臨書学習を通じて、書体が小篆に変化していく様相を体験的に観察し、その書法を学ぶ。	金文の書法を習得できたか。 石鼓文の書法を習得できたか。	6
6月	泰山刻石 自分の名前の篆書	小篆の古典の中でも典型的な「泰山刻石」を半紙に臨書することにより、篆書の特徴と書法を理解していく。 篆刻の学習で落款を作成するにあたり、自分の名前の篆書を辞書で調べ、筆で半紙に練習する。	小篆の書法を習得できたか。 『五體字類』の使い方を習得し、自分の名前の篆書を覚えて書けるようになったか。	6
7月	篆刻の学習 落款をつくる	今後の書道作品に押印できるように落款を彫っていく。 朱文または白文の印稿を作成し、印材に布字して印刷していく過程を理解していく。 また、自分の作品に印を押すことにより、作品の価値を高める効果があることを理解し、今後の自分の作品を愛する心を養う。	篆刻作品を作成する基本的な手順を理解し、それぞれの段階を丁寧に進めることができたか。	6
8月				
9月	隷書の学習 曹全碑 乙瑛碑 礼器碑 半切2分の1に書く	隷書が誕生したのは、書道史のいつの時期なのか理解すると同時に、隷書の特徴や書法を理解し、習得していく。 清書を半切2分の1に書くことにより、バランスの取り方を学び、印を押すことによって一つの作品として完成させる。	隷書の書法を習得できたか。 隷書の歴史的な位置づけを理解したかどうか。 半切2分の1に書くバランスをとらえることができたか。	4 4
10月	草書の学習 書譜 真草千字文	書道史の中で草書がどのようにして誕生したか、どんな目的で使われたかを理解していく。 ていねいに練習し習得していくことで、草書の良さを感じていけるようにする。 半紙に20枚分の古典の臨書することにより、たくさん書いた達成感を味わうとともに、それを和綴じしていく。和綴じは古来から日本の製本方法であるため、それを体験するとともに、一つの作品として完成させる。	草書の書法を習得できたか。 習得しようとする意欲的に取り組んだか。 和綴じの製法を理解できたか。	4 4
11月				4
12月	漢字かな交じりの書の学習	表意文字の漢字と表音文字の仮名を使用した表現方法は日本固有の文字表現であることを理解し、創作作品を作っていく。自分の表現したい言葉をどのような書風で表現したいのか考えていく。また、半紙をマーブリング絵具で染めることにより、白黒で展開される書とは違うイメージのものが出来上がることを体験する。	創作的な表現をするために、線質・字形・全体の構成などの表現技能を身に付け表現しているか。 自己表現しようとする意欲的に取り組んだか。	4 4
1月	仮名の学習 「寸松庵色紙」を散らし書き	書道Ⅰからの応用で、日本の仮名の美の一つである散らし書きに挑戦する。 色紙の大きさに文字をバランスよく散らす楽しさと難しさを味わい、料紙に清書していく。	日本の伝統的な書の美を感受し、表現を工夫しているか。 仮名の書の美と技法を学び、表現を工夫しているか。	6
2月	大字の学習 全紙に一文字書く 全紙2枚にグループで書く	今まで机上での作品作りが多かったが、床で大きな文字を書く。 字の形は今まで通り注意を払うが、いかにダイナミックに書けるかが、今までとは違う経験のため工夫が必要になる。紙に押し込むように体を使って書くように指導していく。 今まで、個々に自己表現が課題だったが、数名で一つの作品を作り上げる。 どんな題材にしたいのか、何文字構成にするのか、配置やテーマを話し合い全紙2枚に表現していく。	大筆の扱いを正しくできたか。 大きな紙に書く書き方を習得できたか、紙の大きさを生かして書けたか。 仲間と協力しながら作品を完成させることができたか。 大きな紙の中にテーマに沿って表現することができたか。	6
3月		それぞれの作品を鑑賞して感想を言い合うなど高校書道の集大成としたい。		6